

NEWS RELEASE

2026年10月13日
株式会社NANKAI
e スタジアム株式会社
株式会社Meta Osaka
一般社団法人Metaverse Japan

まちづくり・商業・エンターテインメントに空間技術を
11月20日になんばスカイオで「JAPAN SPATIAL FORUM IN OSAKA 2026」が開催
NANKAI、e スタジアムが特別パートナーとして参画
■入場無料 ■出展企業・団体・クリエイターを10月31日まで募集

株式会社NANKAI(代表取締役社長:岡嶋 信行、以下「NANKAI」)およびeスタジアム株式会社(代表取締役社長:加藤 寛之)は、株式会社Meta Osaka(以下、「Meta Osaka」)および一般社団法人Metaverse Japanが2026年11月20日(金)に、なんばスカイオ コンベンションホール(大阪市中央区)で開催するビジネスフォーラム「JAPAN SPATIAL FORUM IN OSAKA 2026」に、特別パートナーとして参画します。

本フォーラムは、昨年度も特別パートナーとして参画した「METAVERSE JAPAN SUMMIT 2025」を発展的に継承して開催されます。XRやAI、まちの3Dデータなどの「空間技術」を有する企業・クリエイターと、大阪・関西でまちづくりや交通、商業施設、教育、エンターテインメントに関わる企業・行政が出会い、実証や協業の創出につなげる場です。現在、本フォーラムに出展する企業・団体・クリエイターを募集しています(申込締切:10月31日)。



NANKAIグループでは、広域なんばエリアの魅力向上を目指す「グレーターなんば構想」のもと、リアルとデジタルが融合した次世代の創発体験都市を目指す「デジタルエンターテインメントシティ構想NAMBAA」(2025年2月発表)を推進しています。本フォーラムへの特別パートナーとしての参画を通じて、空間技術(AI・XR・デジタルツイン・ロボティクス等)を有する企業やクリエイターとの共創をさらに加速し、なんばエリアにおける新たな都市体験の創出と持続的なまちづくりの実現を目指してまいります。

開催概要

名称	JAPAN SPATIAL FORUM IN OSAKA 2026
テーマ	SPATIAL IN ACTION ～空間技術を大阪・関西の街と暮らしへ～
主催	株式会社Meta Osaka
共催	一般社団法人Metaverse Japan
特別パートナー	株式会社NANKAI、e スタジアム株式会社
日時	2026年11月20日(金) 開場 11:30／フォーラム 12:00～17:00／交流会 18:00～19:30
会場	なんばスカイオ コンベンションホール (大阪府中央区難波5-1-60 なんばスカイオ7階)
想定来場者数	延べ600名(セッション・展示500名、交流会100名)
入場料	無料(交流会は有料・事前申込制)
公式サイト	https://www.jsf-osaka.com/

プログラム内容 | セッションと展示の2会場で構成

なんばスカイオ コンベンションホールを2つのエリアに分け、セッションと展示会を同時開催します。セッションで紹介された事例をはじめ、同じフロアの展示会場では登壇企業・出展企業との情報交換が可能です。

■ホール A: 展示

- ・企業、団体、クリエイターの出展ブース
- ・XRなどの体験、ロボットの展示(予定)

■ホール B: セッション

- ・基調講演: フィジカル AI と空間コンピューティングの現在地～デジタルツインから動く都市・産業・身体へ～
 - ・SESSION1: 万博後の大阪における都市実装 ～なんばで実証を継続事業につなげる～
 - ・SESSION2: 店舗・観光を変える空間体験 ～XR・バーチャルで回遊・購買・再来訪へ～
 - ・企画: 全国デジタルクリエイティブサポーターアワード(詳細は後日発表)
 - ・SESSION3: IP・エンターテインメントとファンコミュニティ ～バーチャルから街・劇場・イベントへ～
- ※登壇者は決まり次第お知らせします。セッションのテーマや内容は変更になる場合があります。

■交流会(18:00～19:30)

セッション、展示にて生まれたつながりを深める立食形式の交流会(有料・事前申込制)

出展企業の募集について | 申込締切: 10月31日

本フォーラムでは、空間技術やコンテンツを有する企業・団体・クリエイターを対象に出展を募集しています。出展形態は、会場内で展示を行う「出展ブース」、講演を通じて自社の取り組みを発信できる「スポンサー講演」、企業名やロゴの掲出により参画いただく「サポーター」、交流会にて企業名をご紹介する「交流会スポンサー」の4種類を用意しています。各プランの内容・料金については、公式サイトの問い合わせフォーム、またはメール・電話にて事務局までお問い合わせください。

- 募集対象: 空間技術やコンテンツをもつ企業・団体・クリエイター
- 出展プラン: 出展ブース／スポンサー講演／サポーター／交流会スポンサー
- 申込締切: 2026年10月31日(土)
- 申込方法: [公式サイト](#)内の問い合わせフォーム、またはメール・電話より受け付けます
- お問い合わせ: JAPAN SPATIAL FORUM IN OSAKA 2026 事務局(株式会社Meta Osaka)
メール: info@meta-osaka.co.jp 電話: 06-6227-8855

開催背景 | AI は「個人が使うツール」から「現実空間を支える技術」へ

今や誰もが活用する AI は、ロボットや建物、都市インフラと結びつき、現実空間におけるさまざまなサービスや業務の高度化を支える技術として社会実装が進んでいます。政府は2026年3月に「AI ロボティクス戦略(※1)」をまとめ、人型ロボットなどの多用途ロボットの世界市場が2040年までに約60兆円規模に広がるとの見通しを示しました。国内でも、現実のまちや建物の様子をデータでコンピューター上に再現する「デジタルツイン」の関連市場が、2023年の7,329億円から2028年には1兆5,674億円へと2倍以上に広がると IDC Japan は予測(※2)しています。

本取組みの出発点は、2025年の大阪・関西万博です。Meta Osaka は万博会場で開催したイベントの中で「Metaverse Japan SUMMIT@2025EXPO」を実施するとともに、特別パートナーのNANKAIと共同で、「デジタルエンターテインメントシティ構想 NAMBA」を発表しました。同構想は、なんばをデジタルとリアルが融合するまちへ発展させることを目指すものです。続く同年9月には、「Metaverse Japan Summit 2025 Osaka」を大阪・なんばで開催し、行政関係者を含む延べ約500名が来場しました。



2025年5月開催



2025年9月開催

共催の一般社団法人 Metaverse Japan は2026年3月、仮想空間を中心としたメタバース領域にとどまらず、XR や AI、まちの3D データなどを含む「空間技術」全体へと活動領域を拡大し、「Japan Spatial Forum」として新たな体制を始動しました。

本フォーラムは、この新体制のもと、「SPATIAL IN ACTION ～空間技術を大阪・関西の街と暮らしへ～」をテーマに掲げ、大阪・関西万博を契機に始まった大阪での取組みを継承し、新たな名称で開催するものです。

いま大阪・関西に求められているのは、万博で注目を集めたデジタル技術を、まちや店舗、施設などで日常的に活用されるサービスへと発展させていくことです。その実現に向けては、技術を有する企業・クリエイターと、現場で課題解決に取り組む企業・行政が出会い、実証や協業につなげる機会が不可欠です。本フォーラムは、空間技術の社会実装に焦点を当て、企業・行政・クリエイターが交流し、新たな実証や事業創出につなげるビジネスフォーラムとして開催します。

※1: 「AI ロボティクス戦略」AI ロボティクスに関する関係府省連絡会議(2026年3月26日)

※2: 国内デジタルツイン関連市場: IDC Japan 発表(2024年11月11日)

参画企業・団体コメント

株式会社NANKAI 専務執行役員 事業戦略本部長 大塚 貴裕

なんばは古くから演劇や芸能など、多彩な企業やクリエイターが集い、文化・エンターテインメントを生み出し、それらが交わってまた新たな価値を生み出し続けてきた、創造のまちです。当社が推進する『デジタルエンターテインメントシティ構想 NAMBA』は、そのDNAを受け継ぎながら、このなんばの魅力を先進技術等により、「訪れることで新たな価値が生まれる都市」へと概念をアップデートする挑戦です。先進的な空間技術を『単なる体験』で終わらせず、商業や交通、都市の現場で機能するサービスへと育てるためには、実際に試せる『現場』と『共創』が必要です。なんばスカイオで開催される本フォーラムが、多様なプレイヤーの皆さまと出会い、新たな事業や未来の都市体験を次々と生み出す大きな推進力となることを確信しています。未来のなんばを共に創るパートナーとなる皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



株式会社NANKAI デジタルエンターテインメントシティ構想 NAMBA エグゼクティブアドバイザー

e スタジアム株式会社 代表取締役会長 池田 浩士

本フォーラムのテーマである「SPATIAL IN ACTION ～空間技術を大阪・関西の街と暮らしへ～」は、技術の進化を通じて、私たちがどのような社会を築くのかを問うものだと思っています。人間の知的能力を広く上回る ASI(人工超知能)の可能性を見据えると、空間の概念も変化していくと考えています。AI や XR、ロボティクスが現実環境と結びつき、空間は、人・情報・知能の相互作用によって、新たな体験や関係性が生まれる場へと、その意味を広げていきます。

国連機関の提言でも、市民が未来の共創に参加し、技術の恩恵を地域に広く届けることが重視されています。私は、その実現には、一人ひとりが持つ文化や価値観、意思を、都市の未来に反映できることが重要だと考えます。空間技術の進歩を、人が社会に関わる可能性の拡張へとつなげていく。それが、私たちの目指すべき方向ではないでしょうか。

国や言葉の違いを越えて、自らを表現し、他者の世界に触れ、共に未来をつくる。空間技術とエンターテインメントを、そのための社会基盤へと育てたい。なんばでの実践を通じて、人間の尊厳と文化の多様性を支える都市のあり方を、世界へ示してまいります。



株式会社Meta Osaka 代表取締役 毛利英昭

2025年の大阪・関西万博で、進化するデジタル技術が私たちの生活に直結し、人と街を動かす大きな力をもっていることを実感しました。そして、万博はゴールではなくスタートだという思いで、その後もなんばの街を中心にデジタルを活用した新しい街づくりに取り組んでいます。

AI をはじめとするさまざまなデジタル技術が現実の世界で働き始めた今、次に必要なのは、その技術を街や店、施設で本当に使われるものにしていくことです。そのためには、技術をもつ人と現場の課題を知る人が同じ場所で出会い、一緒に試してみる機会をつくることが重要です。

このフォーラムを、大阪を『世界一おもしろい都市(まち)』にするための仲間が集まる場にしたいと考えています。空間技術で街の未来をつくる挑戦に、多くの企業や団体、クリエイターの皆さまに加わっていただけたら幸いです。



一般社団法人 Metaverse Japan 代表理事 馬淵邦美

AI は今、デジタル空間の中だけで完結するものから、ロボティクスや XR、デジタルツイン、空間コンピューティングと結びつき、現実の都市や産業の中で価値を生み出す存在へと大きく進化しています。私たち Metaverse Japan も、こうした変化を捉え、メタバースの普及・啓発からさらに一歩進み、AI、Spatial Computing、XR、Robotics を含む空間技術の社会実装を推進する「Japan Spatial Forum」として活動を進化させています。重要なのは、技術そのものを語るだけではなく、それを実際の都市や産業、ビジネスの現場でどう活かし、新しい価値につなげていくかです。その意味で、万博を通じてさまざまな未来技術が集まり、社会実装への機運が高まった大阪・関西は、次の挑戦を始める非常に重要な場所だと考えています。「JAPAN SPATIAL FORUM IN OSAKA 2026」が、技術を持つ企業やクリエイターと、都市や産業の課題を持つ企業・行政をつなぎ、新たな実証や事業が生まれる場となることを期待しています。ここ大阪から、日本発の空間技術と新しい産業の可能性を、国内外へ広げていきたいと思っています。



一般社団法人 Metaverse Japan 代表理事 長田新子

テクノロジーが社会に根づくためには、技術だけではなく、それを使う人、企業、行政、そして地域が一緒になって「どんな未来をつくりたいのか」を考え、実際に試していくことが大切です。大阪・関西万博では、XR や AI、デジタルツインをはじめとするさまざまな技術が、未来の暮らしや都市の可能性を私たちに見せてくれました。次のステージは、そこで得られた体験やつながりを一過性のものにせず、街づくりや商業、観光、教育、エンターテインメントなど、日常のさまざまな場面へとつなげていくことだと考えています。今回の「JAPAN SPATIAL FORUM IN OSAKA 2026」では、セッションで未来を語るだけでなく、展示や商談を通じて、異なる分野の人たちが直接出会い、具体的なアクションへとつながる場を目指します。「SPATIAL IN ACTION」というテーマの通り、大阪・関西から新しい共創と実装が次々と生まれ、その取り組みが全国へ広がっていくことを楽しみにしています。



以 上